

- 秋田県では、人口減少に伴い、住宅着工戸数は減少していく見込みであり、住宅以外の建築物への木材利用を促進する必要がある。
- このため、住宅以外の建築物への木材利用の意識醸成や建築主へ木造・木質化を提案できる建築士等の人材育成の取組を実施。

□ 事業内容

木造・木質化に取り組む建築人材の育成

- ・ 建築士等が木質材料や構造等を学ぶ「あきた木造建築塾」を開催
- ・ 建築士等をサポートする技術アドバイザーの派遣
- ・ 建築を学ぶ学生を対象に木材利用提案コンクールを開催

【事業費】 3,491千円（うち譲与税3,390千円）

【実績】 あきた木造建築塾 開講4回（参加人数 延べ71人）
 アドバイザー派遣 派遣1回
 木材利用提案コンクール 応募数26点

□ 取組の背景

- ・ 住宅以外の建築物を木造・木質化するには、建築士等に木材に関する知識や技術が必要
- ・ 建築士等が、木材利用について相談できる体制整備が必要
- ・ 将来にわたり積極的に木材利用を推進する人材育成が必要



（あきた木造建築塾）



（木材利用提案コンクール）

□ 工夫・留意した点

- ・ 産学官が連携し、取組を推進
 産：秋田県木材加工推進機構が関係者を招集
 学：秋田県立大学・木材高度加工研究所が講師、アドバイザー
 官：秋田県が広報、普及啓発

□ 取組の効果

- ・ 毎年、あきた木造建築塾に社員を受講させる建築設計事務所があり、木材利用への意識醸成が図られている。
- ・ 研修受講者が設計を手がけた施設が、県が実施している木造・木質化建築賞を受賞するなど、優良な建築実績が出ている。
- ・ 木材利用提案コンクールの応募作品は、秋田県立大学生の参加が多く、木材利用を学ぶ好機となっている。

◇ 基礎データ

①令和4年度譲与額：147,276千円	②私有林人工林面積（※1）：176,572ha
③人口（※2）：959,502人	④林業就業者数（※2）：2,235人

※1：「2020農林業センサス」より、※2：「R2年国勢調査」より